魅力発信！えひめ農業

令和7年 12 月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興
※2　この動向は、12 月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町 4 丁目 4-2
（TEL） 089-912-2558
（FAX） 089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

目次

目次 1
12 月のトピックス５選 3
いちご農家自らが取得したデータをもとに栽培改善を図る研修会を開催 3
いちご環境制御技術の勉強会を開催 3
高校生に向けた就農啓発交流会を開催 4
鬼北地域の儲かる品目候補「紅まどんな」のセミナーを開催 4
伊予美人試食提供・アンケート調査の実施 5
えひめ農業 6
■東予地方局　地域農業育成室 6
さといも栽培講習会で新技術「親芋直接採取増殖法」を周知 6
新規就農者が経営管理等を学ぶ研修会を開催 6
農福連携によるアスパラガスの茎葉除去作業がスタート 7
来作に向けて「ひめの凜」栽培説明会を開催 7
丹原高校の GAP 授業で地域産業人材を育成！ 8
青年農業者が餅つきボランティアを開催 8
「東予で農業ボランティア」今治市でボランティア活動始まる 9
■東予地方局　地域農業育成室　四国中央農業指導班 9
やまのいも「やまじ丸」を道後温泉宿泊施設に PR 9
県外で「うま茶」の販促活動を伴走支援 10
さといも料理を小学生に伝授 10
■東予地方局　産地戦略推進室 11
根域制限栽培ぶどうのせん定講習会を開催 11
■今治支局　地域農業育成室 11
生分解性マルチによるさといもの全期マルチ栽培を実証 11
イチゴ栽培農作業体験をとおして農業の魅力を高校生へ発信 12
わな猟免許取得の青年農業者の捕獲技術向上を目的とした研修会の実施 12
さといも生産者の確保に向けて講習会を開催 13
次年度の安定生産に向けたさといも栽培講習会を開催 13
■今治支局　地域農業育成室　しまなみ農業指導班 14
しまなみ農業指導班・岩城駐在所で、中学校１年生が農業体験 14
■今治支局　産地戦略推進室 14
イタリア野菜飲食店イベント「いまばり×しまなみ野菜 FESTA」を開催 14
■中予地方局　地域農業育成室 15
「中予農業応援ボランティア」を大学生等へ推進 15
女性農業者が地産地消を学ぶ 15
厳寒期におけるさといも種芋の防寒対策について指導 16
新規枝物品目導入に向けた市場等調査 16

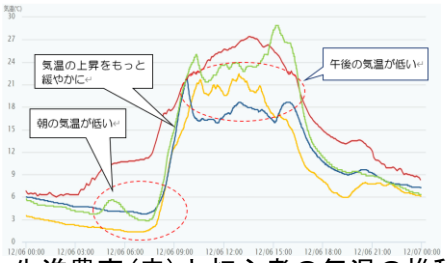
就農研修生が野菜・果樹の病害対策を学ぶ 17
■中予地方局　地域農業育成室　伊予農業指導班 17
地域農業のリーダーが鳥獣害対策を学ぶ 17
食文化の講座で地域農産物への関心が高まる 18
■中予地方局　地域農業育成室　久万高原農業指導班 18
ピーマン実績検討会で実証試験結果を報告 18
トマトの高温対策実証試験結果を報告 19
■中予地方局　産地戦略推進室 19
シンテッポウユリの定植時期の検討について 19
■南予地方局　地域農業育成室 20
小学生に温州みかんの収穫と試食を通して農業の魅力を発信 20
「南柑 20 号」根域制限マルチ栽培に手応え 20
■南予地方局　地域農業育成室　鬼北農業指導班 21
「緑肥」で環境負荷と肥料コストを低減！ 21
■南予地方局　地域農業育成室　愛南農業指導班 21
JA 伊勢におけるかんきつ輸出の取組みを学ぶ..... 21
農業研修生の就農準備が進む 22
■南予地方局　産地戦略推進室 22
青梅収穫を見据えて意識統一！ 22
つるむらさきの産地拡大に向け、愛南町で栽培講習会を開催 23
■八幡浜支局　地域農業育成室 23
温州みかんの省力化に向け摘果シートの被覆効果を実証 23
アルバイター説明会で地域連携を推進 24
■八幡浜支局　地域農業育成室　大洲農業指導班 24
一次産業女子グループが農業用ビニールハウスでマルシェを開催 24
起業を志す高校生を青年農業者が応援！ 25
■八幡浜支局　地域農業育成室　西予農業指導班 25
各落葉果樹生産部会がせん定方法を勉強 25
■農産園芸課　高度普及推進グループ 26
首都圏における流通・販売動向等調査を実施 26
愛媛県スマート農業シンポジウムを開催 26
若手職員が地域課題を解決するプロジェクト型調査研究の中間報告会を開催 27

12 月のトピックス５選

標　題	いちご農家自らが取得したデータをもとに栽培改善を図る研修会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年 12 月 10～12 日、24～25 日	場所	西条市丹原、玉津、飯岡、壬生川等	
指導対象	いちご生産者（20 人）	連携機関	JA（周桑、えひめ未来）　等	
普及指導内容	○オランダの最先端栽培技術の導入により単収向上を図り、儲かる農業の実現を目指す局予算事業（R7 年度～）において、技術の定着を促すフォローアップ研修会を開催した（11 月から２月まで隔週開催）。 ○３つの班に分かれた少人数制とし、農家自ら実施した生育調査や環境計測のデータを普及指導員が分析して、個々の課題を抽出し、具体的な改善策を提示して指導した。			
結果と今後	○農家からは「先進農家のデータと比較しながら説明してくれたので分かりやすかった」「栽培改善を図った後に、温湿度やいちごの生育がどのように変化するかが楽しみだ」等の声が聞かれ、取組みへの意欲が感じられた。 ○２月末まで隔週でフォローアップ研修会を実施することとしており、農家自らが生育調査や環境計測を行い、そのデータを分析しながら栽培指導を行うことで、新技術の定着を図る。			

土壌水分率を確認（２班）

根の分布域を確認　（１班）



先進農家（赤）と初心者の気温の推移

標　題	いちご環境制御技術の勉強会を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和７年 12 月 19 日	場所	今治市富田地区	
指導対象	いちご生産者（４人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○島しょ部のいちご生産者を対象に勉強会を開催している「ハウス内環境制御」について、同技術の拡大を図るため、品種構成等が異なる陸地部でも改めて勉強会を開催した。 ○今回の勉強会は、生産者が園地に設置した安価な環境モニタリング機器のデータと生育データを照らし合わせ、参加者同士でデータを比較しながら、最適な栽培管理方法について学ぶ方式とした。			
結果と今後	○参加者からは、自らの園地のデータを使用することで、当事者意識を持って積極的に取り組む姿勢が伺えた。 ○また、ハウス内環境を最適化するために近隣生産者の管理を参考にできるなど、環境制御へのなじみやすさも好評であった。 ○今後も同勉強会を定期的に開催し、島しょ部・陸地部の環境等に適応した環境制御技術の更なる普及を通じて、いちご栽培技術の向上と収益向上を支援していく。			

設置した環境モニタリング機器

関係者で勉強会を開催

環境データと生育データを比較

標　題	**高校生に向けた就農啓発交流会を開催**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年 12 月 18 日	場所	県立伊予農業高校	
指導対象	伊予農業高校生（29 人）	連携機関	伊予地区農業改良普及事業推進協議会	
普及指導内容	○農業の魅力発信と新規就農者の確保を目的に、農業高校生を対象とした交流会を開催した。 ○魅力的な農業経営を実践する３名の農家を講師に招き、大規模経営での農福連携や同校卒業後から就農までの経緯、やりがいや苦労話について発表いただき、生徒たちと活発な意見交換を行った。 ○また、当班から就農に向けた手順とサポート体制(補助金・研修等)について情報提供した。			
結果と今後	○意見交換では、「高校時代から就農を考えていたか」「必要な労働力は何人か」といった具体的な質問が寄せられ、就農への前向きな姿勢が見られた。 ○実施後のアンケートでは「実際に就農した人の話は実感を持って理解できた」「農福連携の話で農業に対する考え方が変わった」といった意見が寄せられた。 ○今後も若い世代の就農者確保に向け、農業の魅力発信等の取組みを継続していく。			

左：農福連携の取組事例等を発表する認定農業者

右：意見交換

標　題	**鬼北地域の儲かる品目候補「紅まどんな」のセミナーを開催**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和７年 12 月 23 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	認定農業者、新規就農者、農業研修生ほか（20 人）	連携機関	鬼北町、松野町、JA えひめ南、県立北宇和高校	
普及指導内容	○鬼北地域の儲かる品目候補として、当班が実証に取り組んでいる「紅まどんな」の普及に向け、実証結果の報告やハウス建設費の低減の取組み、栽培農家による「紅まどんな」の魅力や栽培ポイントについてのセミナーを開催。 ○今年度から JA 共選場への出荷を開始し、沿岸部の園地に劣らない高い品質評価を得た当班が栽培した果実の試食や、栽培ほ場の見学を実施した。			
結果と今後	○気温が低い地域で栽培する場合の留意点や管理ポイント等について、参加者から質問が相次ぐなど、関心の高まりが感じられた。 ○すでに栽培を始めている生産者に加え、導入を希望する生産者へのサポート体制を整えるとともに、班内での実証を継続し今後の普及を目指す。			

左：栽培の魅力・ポイントを学ぶ参加者

右：栽培ほ場を見学する参加者

<table>
<tr><td>標　題</td><td colspan="2">伊予美人試食提供・アンケート調査の実施</td><td>機関名</td><td>八幡浜支局産地戦略推進室</td></tr>
<tr><td>年月日</td><td>令和７年 12 月６日</td><td>場所</td><td colspan="2">西予市宇和地区</td></tr>
<tr><td>指導対象</td><td>－</td><td>連携
機関</td><td colspan="2">JA ひがしうわ</td></tr>
<tr><td>普及指導
内容</td><td colspan="4">〇西予市におけるさといもの栽培推進･知名度向上のため､JA ひがしうわが主催する「JA まつり」にて、さといもの PR 活動を実施した。
〇西予市で栽培された「伊予美人」を用いた芋炊きの試食の他、食味や栽培（農家対象）に関するアンケート調査、新規栽培者募集パンフレットの配布を実施。</td></tr>
<tr><td>結果と今
後</td><td colspan="4">〇アンケートの結果、９割が「とても美味しい・美味しい」と回答。「伊予美人」ならではのホクホク食感など、魅力を十分に発信できた。
〇また、農家の４割が栽培に興味があると回答し、栽培上の注意点などについて説明したところ、「年明けも収穫可能なのか」「水稲や麦との組み合わせは可能なのか」などの質問があった。
〇今後、栽培に興味を示した農家に聞き取りを行うなど、さといも産地の生産拡大に努める。</td></tr>
<tr><td colspan="5">

左：試食によるさといもの PR
右：アンケートに回答する農家</td></tr>
</table>

えひめ農業

標　題	さといも栽培講習会で新技術「親芋直接採取増殖法」を周知		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月 25 日～26 日	場所	JA えひめ未来西条あぐりセンター JA 周桑営農管理研修センター	
指導対象	JA えひめ未来（西条）里芋部会（34 人）、JA 周桑里芋部会（130 人）	連携機関	JA（えひめ未来、周桑）	
普及指導内容	○管内 JA のさといも講習会において、今治支局地域農業育成室が考案した「親芋直接採取増殖法」の実証結果を基に、同増殖法のチラシを作成し、周知を行った。 ○同増殖法は、廃棄していた親芋から苗を増殖するもので、親芋の加温、分割時に土壌病害へのり病が確認できるだけでなく、収穫用コンテナに親芋を入れたまま簡単に加温、育苗でき、従来のセル苗育苗に比べ育苗期間も 15 日程度と大幅に短縮できることから生産者の期待も高くなっている。			
結果と今後	○参加者からは、芽出し方法や定植時の注意点を質問するなど、関心の高さを感じられたほか、セル苗育苗経験者からは「通常の定植時期に植え付け作業ができ、なおかつ増収効果が見込めるならやってみたい」との意見があった。 ○令和８年度においても、局予算事業で同増殖法の確立に取り組む今治支局と連携しながら新増殖法の確立と技術普及に取り組む。			

JA えひめ未来での説明

JA 周桑での説明

直接採取法の個別説明（JA 周桑）

標　題	新規就農者が経営管理等を学ぶ研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月 11 日	場所	県西条第二庁舎、 西条市壬生川、三芳	
指導対象	新規就農者、青年農業者等（11 人）	連携機関	西条市、新居浜市、JA（周桑、えひめ未来）	
普及指導内容	○新規就農者や青年農業者が栽培技術等を学ぶ研修会の第６回講座として、経営管理と管内で急速に栽培面積が増えている葉ねぎの栽培技術を学ぶ研修会を開催した。 ○室内講習では、税理士から複式簿記による経営管理や収入保険を始めとする諸制度の活用等に係る説明を受けた。 ○また、現地研修では、ねぎの周年栽培に取り組む法人から、収穫後の調整作業やほ場での栽培管理、ハウスでの育苗管理等の説明を受けた。			
結果と今後	○出席者からは、税制改正やねぎの出荷先との関係を構築するための方法など実践的な質問が挙がり、講師の話への関心の高さが伺えた。 ○次回１月の講座では、病害虫の診断の手法やいちご、葉わさびの栽培技術などを学ぶ研修を予定しており、今後も新規就農者や青年農業者の活動を支援していく。			

税理士による経営管理講習

葉ねぎの調製に係る説明

葉ねぎの栽培管理に係る説明

標　題	農福連携によるアスパラガスの茎葉除去作業がスタート		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月 24 日	場所	西条市内各地	
指導対象	集落営農法人（５法人） Ｂ型福祉事業所（10 事業所）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	○農福連携による労働補完の支援を行っている集落営農法人において、福祉事業所によるアスパラガスの茎葉除去作業がスタートした。 ○農福連携の取組みが進んでいるさといもの収穫作業では、これまで、福祉事業所がほ場に到着するまでに、いもの掘り上げを済ませ、１日の出来上がりケース量の目安を決めるなど、毎年作業工程の改善を重ねてきたが、降雨の影響は避けられないことから、同取組みを推進する上では、ハウス内でできる作業の拡大が課題となっている。			
結果と今後	○アスパラガスの茎葉除去作業は、比較的軽量で単純な作業であり順調に進んだものの、作業時に乾燥した細かな残さが浮遊し、ハウス内に拡散したこと等から、作業環境の向上が求められ、今後は、ハウス内の換気対策等を進めることとなった。 ○管内の集落営農法人では、この時期が麦のは種作業等で繁忙期となっていること等から、今後も福祉事業所や作業従事者の意見を聞きながらアスパラガスやさといも作業の委託工程の見直し等を支援、推進する。			

アスパラガスの茎葉除去作業

茎葉除去後の状況

農福連携によるさといもの収穫

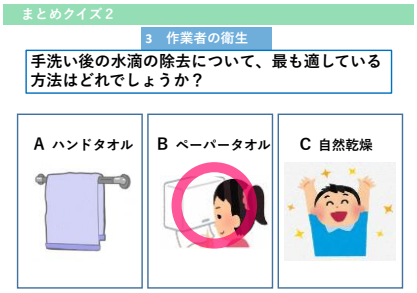
標　題	来作に向けて「ひめの凜」栽培説明会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月２日、３日、８日	場所	JA えひめ未来(新居浜経済センター、西条あぐりセンター)	
指導対象	JA えひめ未来「ひめの凜」栽培希望者（164 人）	連携機関	JA えひめ未来、農産園芸課	
普及指導内容	○JA えひめ未来カントリーエレベーターが、８年産より「にこまる」に替わり「ひめの凜」を受け入れることに伴い、「ひめの凜」の新規栽培者等を対象とした栽培説明会を管内２か所で計５回開催した。 ○説明会では、異常高温となった本年度の栽培状況のほか、「ひめの凜」の品種特性と栽培管理のポイントである水管理、中干し、穂肥施用技術等を説明した。			
結果と今後	○「ひめの凜」の栽培に興味を持つ生産者が多数出席し、関心の高さが伺えた。 ○今後、管内の８年産「ひめの凜」の栽培者及び栽培面積が大幅に増える見込みであることから、当室では、栽培開始前に改めて講習会及び個別指導を行うとともに、種子・苗の取扱い、品質分析や表示方法等、認定栽培者制度の周知を図ることとしている。			

栽培管理の説明

認定制度の説明

標　題	丹原高校の GAP 授業で地域産業人材を育成！		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月３日	場所	県立丹原高校	
指導対象	県立丹原高校生、県立今治南高校生（18 人）	連携機関	―	
普及指導内容	○ブドウで G.GAP 認証を取得している丹原高校と、取組みへの関心が高い今治南高校の生徒を対象として、基礎的な GAP の理解促進を図ることを目的に学習会を実施した。 ○丹原高校は、GAP 取得モデル校として８年目を迎えており、近隣の高校や地域農家に同取組みを広める役割を担っている。 ○学習会では、GAP の概要や進め方についてクイズを交えながら説明し、農薬散布時の正しい服装や手洗いの方法等について指導を行った。			
結果と今後	○高校生からは「GAP について詳しく知ることができた」「農業の安全性について考える良いきっかけになった」などの声が聞かれた。 ○今後も来年度の G.GAP 認証更新に向けて、継続的に支援を行っていく。			

GAP の概要を説明する様子



作業者の衛生に関するクイズ

ぶどうを栽培するハウス

標　題	青年農業者が餅つきボランティアを開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月 19 日	場所	新居浜市障がい者福祉センター	
指導対象	新居浜市青年農業者協議会員（５人）	連携機関	新居浜市	
普及指導内容	○新居浜市青年農業者協議会と地元障がい者施設が開催する餅つきイベントの企画、運営について支援した。 ○当日は、会員が市内で生産した餅米を使って、施設の利用者や関係者と餅つきや試食等を行うことにより交流を深めた。			
結果と今後	○会員は、自ら生産した農産物を参加者に PR するとともに、日頃接する機会の少ない地域住民等と積極的に関わり喜んでもらうことで、共生社会の一員であることを改めて実感することができた。 ○今後も同協議会の活動を支援し、地域イベントや社会奉仕活動への積極的な参加等を通じて、地域で生産される農産物を消費者により広く PR するとともに、地域の活性化や会員の資質向上を図る。			

餅つきの準備作業

障がい者との餅つき

標　題	「東予で農業ボランティア」今治市でボランティア活動始まる		機関名	東予地方局農業振興課
年月日	令和７年 12 月６、14、20 日	場所	今治市菊間地区、富田地区	
指導対象	農業事業体（３事業体） ボランティア（15 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○「デイワーク」アプリと地域ポイントを活用した有償ボランティアの仕組みづくりは、昨年度の西条市に加え、今年度は今治市へも活動を拡大している。 ○12 月は（株）ファーム咲創でのさといも収穫体験会及び個別農家のかんきつ収穫でボランティア活動をマッチングさせた。 ○（株）ファーム咲創と伊予柑農家へはそれぞれ愛媛新聞、日本農業新聞から取材があり、当課からも活動 PR を行った。			
結果と今後	○ボランティアは「さといも収穫は意外と大変、価格が高くても納得」、「斜面での伊予柑の収穫作業は大変だった」「紅まどんなにとげがあることを初めて知った」など、農作業の苦労を感じつつも収穫作業を楽しみ、「農業を身近に感じ、良い経験になった」「また参加したい」と話した。 ○農家は農業ボランティアを活用したい意向であることから、今後も、ボランティア希望者を増やしていくこととしている。			

快晴の下さといもを収穫するボランティア

標　題	やまのいも「やまじ丸」を道後温泉宿泊施設に PR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年 12 月 24 日	場所	県庁第一別館６階	
指導対象	四国中央やまじ丸生産振興協議会	連携機関	食ブランドマーケティング課、 JA うま	
普及指導内容	○同市特産品の「やまじ丸」の販路拡大に向け、道後温泉宿泊施設の料理長に「やまじ丸」の生産状況や特長等を説明した。 ○特に「やまじ丸」の強い粘りや「愛」あるブランド産品の認定を受けていること等を PR するとともに、食事メニューの１品として利用できないか検討を依頼した。			
結果と今後	○今回、生芋とすりおろした冷凍やまのいもをサンプル提供し、宿泊施設において調理、試食した感想等について、後日アンケートで回答してもらうこととした。 ○また、料理長はサンプルを手に取って、「400～500g の生芋が扱いやすい」「道後温泉宿泊施設全体で利用するようになると良い」等の意見があった。 ○今後、他の道後温泉宿泊施設等へ「やまじ丸」の PR 活動を行い、道後温泉の多くの宿泊客に提供されるよう活動を展開していく予定。			

道後温泉宿泊施設の料理長へ「やまじ丸」を PR

【やまじ丸】
四国中央市で生産された県育成品種「やまじ王」を JA うまが商標登録。「愛」あるブランド産品の認定を受けている。

標　題	**県外で「うま茶」の販促活動を伴走支援**		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年 12 月４日～６日	場所	東京都　せとうち旬彩館、シンエヒメ 広島県呉市　(株)福屋呉店	
指導対象	うま茶振興協議会茶業販促グループ	連携機関	（株）やまびこ	
普及指導内容	○うま茶振興協議会茶業販促グループが、「儲かるモデル産地育成システム確立実証事業（県単)」を活用して県外で取り組む「うま茶」の販路拡大や PR 活動を支援した。 ○(有)脇製茶場は、霧の森と連携し、東京都のせとうち旬彩館で茶の試飲販売とアンケート調査、シン・エヒメで試飲販売を実施した。 ○また、大西茶園は、広島県呉市の百貨店において、茶の試飲や量り売り等を実施した。 ○それぞれの客層に合わせて、茶葉の質感、香り、味等、茶の種類や特長を消費者に伝え、「うま茶」のイメージアップと購買を促した。			
結果と今後	○消費者アンケートでは、「うま茶」に対する認知度は低かったが、国産の安全・安心な茶への関心は高かった。 ○引き続き、県内外の販促活動を伴走支援し、生産者の顔が見える商品販売を行うとともに、消費者が家庭等で楽しみながら茶を飲む習慣が定着するよう取り組む。			

左：シン・エヒメで試飲による産地 PR
右：消費者へうま茶の特長等を説明（呉市内百貨店）

標　題	**さといも料理を小学生に伝授**		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年 12 月３日	場所	四国中央市立寒川小学校調理室	
指導対象	四国中央生活研究協議会（５人）	連携機関	四国中央市立寒川小学校	
普及指導内容	○「食と農」への関心を高め、地産地消の推進につなげることを目的に、寒川小学校３年生 36 人を対象として、生活研究協議会がさといも料理の作り方を伝承する食文化普及講座の開催を支援した。 ○小学生は会員の指導のもと、四国中央市産のさといもを使った「さといも餅」と「さといも唐揚げ」「さといもおはぎ」を調理、試食し、郷土のさといもの味を再確認した。			
結果と今後	○小学生からは「おいしい、また食べたい」「作り方がわかったので、また作りたい」などの意見があり、家庭での実践が期待できる。 ○会員は、今回の講座を通して、地元で採れたものを地元で食べることの意義や、おやつ感覚で味わえるさといも料理の魅力を伝えることができた。			

左：さといもの皮むきを指導
右：調理したさといも料理

標　題	**根域制限栽培ぶどうのせん定講習会を開催**		機関名	東予地方局産地戦略推進室 今治地域農業育成室・産地戦略推進室
年月日	令和７年 12 月 15 日	場所	今治市大西町紺原、今治市上浦町瀬戸	
指導対象	根域制限栽培ぶどう生産者（４人）	連携機関	－	
普及指導内容	○トライアングルエヒメで実証中のぶどう根域制限栽培園地２か所において、せん定講習会を開催した。 ○成木については、適正な枝密度とするため、必要以上の芽を残さないことに加え、結果母枝が欠損した場合の対応について説明した。 ○定植１年目の幼木については、主枝延長枝からの新しょう発生を促進する必要があることから、発芽を促す液肥の塗布および芽傷処理を確実に実施するよう指導した。			
結果と今後	○次年度から新たに根域制限栽培でぶどうの栽培に取り組む生産者からは「芽傷処理について知らなかった。大変勉強になった」との声が聞かれた。 ○今年の実証園２か所については、肥大不足や糖度上昇の遅延が課題となったことから、次作に向けて、給液管理の見直しや適正な着果量の検討を行う。			

せん定のポイントを指導

標　題	**生分解性マルチによるさといもの全期マルチ栽培を実証**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月２日	場所	今治市大西	
指導対象	さといも生産者（２人）	連携機関	ＪＡおちいまばり、農林水産研究所	
普及指導内容	○農林水産研究所と連携して、環境負荷低減と作業の省力化を図るために、２種類の生分解性マルチによる全期マルチ栽培の実証を行った。 ○当室は、生分解性マルチが収量に及ぼす影響を調査した。			
結果と今後	○生分解性マルチの分解程度としては、２種類とも分解が進み土壌が露出している箇所が見られ、一部雑草の発生も見られたが収穫作業に影響はなかった。 ○収量は、生分解性マルチとポリマルチとも同程度で、1.7 kg/株（９株調査）であった。 ○実証生産者は、マルチの剥取り・処分にかかる労力の削減が図れたものの、価格がポリマルチの約４倍と高価なことが課題であるとの評価であった。			

左：収量調査
右：収量調査したさといも
（左　：生分解性マルチＡ区
中央：生分解性マルチＢ区
左　：ポリマルチ区）

標　題	**イチゴ栽培農作業体験をとおして農業の魅力を高校生へ発信**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月８日	場所	しまなみいちご園（今治市中寺）	
指導対象	県立今治南高等学校生徒（13 人）	連携機関	県立今治南高等学校、今治 CATV、(農)サポート中寺、JA おちいまばり	
普及指導内容	○農作業を学ぶ機会を通じて農業への関心を高めることを目的に、第２回イチゴ栽培農作業体験（定植後の管理作業）を開催した。 ○当室からイチゴ栽培の年間作業について、また、生産者から定植後の管理作業とそのポイントについて説明を行った後、実際に摘果等の作業を実施した。			
結果と今後	○生徒たちは、９月に定植した後の生育状況を観察し、熱心に作業に取り組んでいた。 ○今後は、２月中旬に収穫作業を予定しており、これらの様子は、今治 CATV が 30 分程度に編集し地域情報チャンネルで放送予定。			

左：年間の栽培作業を説明

右：指導を受け摘果作業を実施

標　題	**わな猟免許取得の青年農業者の捕獲技術向上を目的とした研修会の実施**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月９日	場所	今治市朝倉上	
指導対象	今治市青年農業者協議会 朝倉グループ（５人）	連携機関	（株）野生鳥獣対策連携センター	
普及指導内容	○狩猟免許（わな猟）取得後、捕獲経験の浅い青年農業者を対象に、捕獲技術の向上を目的とした研修会を開催した。 ○講師から、獣道の見つけ方や捕獲効率の良いわな設置場所、設置時の注意事項等の説明を受け、７月に自作したくくりわなを設置した。 ○設置後、場所の選定理由と疑問点を確認し、講師から改善点などのアドバイスを受けた。			
結果と今後	○参加者からは、「実際に捕獲を行う場所で獣の痕跡を見つけ、わなの設置をしたことで捕獲に自信がついた」との意見があり、今回の講座を通して、青年農業者の捕獲技術の向上と、地域での鳥獣害対策の中核的な担い手を育成する機会となった。 ○今後、青年農業者の更なる捕獲技術の向上を目指し、フォローアップ研修を計画している。			

わな設置の方法について説明

獣道の見つけ方について説明

わな設置場所を議論する参加者

標　題	さといも生産者の確保に向けて講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月 13 日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部	
指導対象	さといも栽培希望者（４人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○管内の高齢化に伴い生産者が減少し栽培面積が横ばいであることから、新規栽培者の確保を目的に、次年度からの栽培希望者を対象とした栽培講習会を開催した。 ○管内のさといも栽培の現状や「伊予美人」を紹介後、さといも栽培の主要作業である「土づくり」「定植」「雑草対策」のポイントを説明した。 ○今年は夏の高温による葉焼けが確認されたため、ほ場選定の際は、排水性が良く常にかん水できるほ場を選ぶよう指導した。			
結果と今後	○栽培希望者からは「欠株を防ぐ種芋の植付け方法」「重労働作業を省力化できる支援」について質問があり、畝立て～植付けの個別指導や講習会、機械レンタルの活用により対応していくことを説明した。 ○次年度は、栽培面積約 60a の増加が見込まれていることから、今後、新規栽培者の定着に向け JA と連携してきめ細やかな対応を行うこととしている。			

伊予美人・作業ポイントを説明

栽培希望者からは質問が飛び交った

標　題	次年度の安定生産に向けたさといも栽培講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月 24 日	場所	ＪＡおちいまばり乃万支所	
指導対象	越智今治里芋部会（20 人）	連携機関	ＪＡおちいまばり	
普及指導内容	○令和７年産越智今治里芋部会の年内出荷（12/14 まで）は、出荷量 289ｔ（昨年対比 116%）と昨年実績を上回り、次年度更なる出荷量の向上を図るため講習会を開催した。 ○当室は、菜種梅雨による定植作業の遅延対策として、年末からの土づくり等による計画的なほ場準備の実施の他、面積拡大に向けた収穫作業の機械化について紹介した。			
結果と今後	○参加した生産者からは、「軟腐病対策について知りたい」「収穫機導入の補助事業等を知りたい」など、次年度の作付けに向けた栽培意欲の高まりがうかがえた。 ○当室は、土づくりから定植までの作業の抜け防止を確認するチェックリスト表を配布し、今後も引き続き支援を行っていく。			

計画的な土づくり等を指導

標　題	しまなみ農業指導班・岩城駐在所で、中学校１年生が農業体験		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和７年 12 月２日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在所	
指導対象	上島町立岩城中学校１年生（16 人） 上島町立弓削中学校１年生（24 人） 上島町立魚島中学校１年生（４人）	連携機関	－	
普及指導内容	○上島町の全中学校（岩城、弓削、魚島）の生徒が、島特産のかんきつ類に関する学習の一環として、夏の摘果作業に続き２回目となる温州みかんの収穫作業を体験した。 ○当班から摘果作業以降の生育状況について説明し、収穫作業の手順を解説した後、生徒達が収穫を行った。			
結果と今後	○生徒達は楽しく熱心に作業に取り組み、無事収穫を終えた。 ○全員が夏冬２回の作業を体験したことで、暑い中での摘果作業が美味しいみかんへつながることを実感した様子であった。 ○また、「農家の大変さや喜びが分かって、すごく勉強になった」「休みの日に親の手伝いを頑張りたい」と地元農産物への意識を高めることができた。 ○上島町３校合同での体験学習が実現し、教職員からも「今後も是非実施したい」と強い要望があった。			

実証ほで収穫体験作業の様子

標　題	イタリア野菜飲食店イベント「いまばり×しまなみ野菜 FESTA」を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和７年 12 月１日～12 月 28 日	場所	今治市内飲食店５店舗	
指導対象	イタリア野菜生産者（10 人）	連携機関	JA おちいまばり（さいさいきて屋）	
普及指導内容	○イタリア野菜の飲食店での取扱量増加や消費者の認知度向上を目的に、市内の飲食店５店舗を対象としたイベント（デジタルスタンプラリー）を約１か月間にわたり開催。 ○各店舗はイタリア野菜を使用した料理を開発・提供し、消費者には、イベント料理・スタンプラリーを満喫してもらうとともに、特徴やレシピ等をまとめた POP を作成して飲食店の卓上に設置し、認知度向上に加えて家庭での消費量の増加も図った。			
結果と今後	○各店舗のポスターや JA 広報誌等の PR を通じて 110 名を超える参加者があり、今後、アンケート回答者から抽選でイタリア野菜を含めた「さいさいきて屋」の特産品詰め合わせをプレゼントすることで、更なる PR に努めることとしている。 ○アンケート調査では、外食でよく訪れるジャンルはイタリアンや和食が多いなどの結果を得たことから JA や飲食店とも情報共有し、産地化への取組みに活かしながら、取扱量の増加と生産者の所得向上につながるよう支援していく。			

イベント周知用 Web バナー

使用したイタリア野菜
（カーボロネロ）

イベント提供メニュー
（バターナッツカボチャ）

標　題	「中予農業応援ボランティア」を大学生等へ推進		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月１日、17 日	場所	愛媛大学農学部、えひめ農業未来カレッジ	
指導対象	愛媛大学農学部学生（79 人）、えひめ農業未来カレッジ学生（28 人）	連携機関	愛媛大学農学部、えひめ農業未来カレッジ	
普及指導内容	○中予管内農業者の農繁期における労働力確保を目的に、12 月から始動した「中予農業応援ボランティア」について、若い世代である学生の参加促進のため、各大学等において説明会を実施した。 ○当室で作成したチラシ等推進資料を配布した上で実施地区や作業内容、実施体制など全体的な説明を行った後、各種アプリ登録からボランティア応募手続き、作業後のポイント取得・活用といった一連の流れを説明し、ボランティア参加を働きかけた。			
結果と今後	○多くの学生が資料を確認しながら熱心に説明を聞いていたほか、実際にアプリをダウンロードし、画面を開いている学生も見られた。また、過去に農作業ボランティアに参加した学生も少数であったが存在した。 ○当室では、同応援ボランティアの利用拡大のため、引き続き両輪となる農家とボランティアの一層の活用を促す取組みを展開していく。			

左：愛媛大学農学部での説明

右：えひめ農業未来カレッジでの説明

標　題	女性農業者が地産地消を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月３日	場所	でべそおばちゃんの店、いわぎ物産センター（上島町）	
指導対象	松山地区生活研究会員（17 人）	連携機関	東温市農林振興課	
普及指導内容	○地産地消事例の情報収集を目的に、上島町で地元特産レモンを活用した料理の開発に取り組み、長年農家レストランを営んでいる「でべそおばちゃんの店」について、東温市と連携し視察研修を実施した。 ○レモンの果実（果汁・器）や葉（香り・飾り）をふんだんに用いたレモン懐石の調理から盛り付けを体験した後、実食しながら会員間及び店経営陣と意見交換を行った。			
結果と今後	○会員からは、「レモンを多く使用している料理であるものの、爽やかな風味を生かしつつ独特の苦みや過度な酸味を感じない」と食材を余すことなく有効利用する点に感心した声が寄せられたほか、地産地消の実情や農家レストラン経営について近況共有を行うことで他地区とのネットワーク強化を図ることができた。 ○「グループ内で集まり、会員間で料理講習を実施できたら」といった提案が出るなど、今後の活動を行う上で会員の意欲向上につながった。			

左：レモン懐石の調理体験

右：完成したレモン懐石

標　題	厳寒期におけるさといも種芋の防寒対策について指導		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月 8 日～20 日	場所	松山市及び東温市全域	
指導対象	さといも生産者（20 人） JA えひめ中央就農研修生（７人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	○当室では、厳寒期における種芋の安定生産技術の普及・定着を目的に、講習会及び個別指導を通じて、ほ場貯蔵における防寒対策技術について指導。 ○10 月に開催した講習会では、令和６年度の実証結果を基に、もみ殻と不織布等を利用した防寒対策が有効であることを説明し、12 月からは個別指導により生産者ほ場での防寒対策をフォローした。			
結果と今後	○生産者からは「昨年は凍害が発生したので今年は実践してみたい」「初心者なので、非常に参考になった」などの意見があり、防寒対策の重要性について認識を高めることができた。 ○令和７年度も現地実証ほを設置し、防寒対策の効果について検証予定。 ○今後も、実証試験データを蓄積・分析して技術確立を図るとともに、講習会等を通じて普及・定着を図り、産地拡大と新規栽培者の確保・育成に取り組んでいく。			

10 月開催の防寒対策技術講習会

畦の上にもみ殻を敷いたあと、
覆土もしくは不織布を被覆

防寒対策の実証ほを設置(12/8)

標　題	新規枝物品目導入に向けた市場等調査		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月９日～11 日	場所	東京都内	
指導対象	JA 松山市ユーカリ専門部 JA えひめ中央花木部会	連携機関	大田市場、花き小売店	
普及指導内容	○当室では、ユーカリを核とした花きの周年供給体制を整備するため、東京都内の卸売市場及び小売店を対象に流通調査を実施し、ユーカリの端境期（４～８月）を補完する有望花きの動向や他県の生産状況等について情報収集を行った。			
結果と今後	○流通関係者によると、夏季は品目・出荷量とも少なく需要が見込まれるほか、コロナ禍を契機に個人消費が増加し、EC サイトやサブスクリプションなど新たな販売形態へのニーズが高まっていることなど、重要な情報を得ることができた。 ○今後は、さらに市場調査や先進地調査を行い、新規品目の選定、栽培技術の実証及び流通形態に対応した出荷体制の整備など、生産対策と販売対策の両輪で取り組みながら、中予地域の花き産地の強化を図っていく。			

左：大田花きにおけるセリの様子

右：都内小売店における枝物の取扱い

標　題	**就農研修生が野菜・果樹の病害対策を学ぶ**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月 15 日	場所	JA えひめ中央城北支所	
指導対象	JA（松山市・えひめ中央）・松山市農業指導センターの就農研修生（26 人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、松山市農業指導センター、農林水産研究所	
普及指導内容	○本年度２回目となる合同研修会を開催。 ○研修会では、県農林水産研究所職員から、近年、問題となっている水稲・野菜及び果樹の病気について、最新の知見や試験結果を踏まえた生理障害との見分け方及び薬剤の効果等をわかりやすく説明した。 ○また、当室から農薬の保管や使用した際の記録をはじめ、周辺環境や風向き等を踏まえた薬剤散布の注意点について指導した。			
結果と今後	○研修生からは、「作物を観察する重要性や、生理障害との見分け方がわかって良かった」「自分たちの弱い部分が勉強できた」などの意見があった。 ○今後も関係機関と連携し、管内就農研修センターからの要望も踏まえ合同で取り組める研修会を開催していく。			

研修会

標　題	**地域農業のリーダーが鳥獣害対策を学ぶ**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年 12 月８日	場所	ウェルピア伊予	
指導対象	伊予地区農業経営者連合協議会(47 人)、あいネットワーク(５人)	連携機関	農産園芸課	
普及指導内容	○当班では、夫婦のパートナーシップ強化と持続可能な農業経営を目的とした合同研修会を平成 27 年度から開催しているところ。 ○今年度は、農産園芸課の担当職員による鳥獣害対策の研修会を開催し、５組の夫婦をはじめ、地域農業のリーダーたちが熱心に参加した。			
結果と今後	○会では、イノシシやシカ、ハクビシン、カラスなど野生動物の生態を理解したうえで、捕獲活動、被害の発生を防ぐ対策、そして地域住民が協力し合う体制づくりの３つの柱を総合的に実行することが、被害を最小限に抑える鍵であるとの認識を深めた。 ○今後も関係機関と連携し、経営者としての視野を広げ、知識・技術力を高める研修を通じて、魅力ある農業経営の実現を支援していく。			

研修会

標　題	食文化の講座で地域農産物への関心が高まる		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年 12 月 11 日、21 日、22 日	場所	青葉幼稚園と恵久美集会所（松前町） ひろた交流センター（砥部町）	
指導対象	青葉幼稚園児と保護者等(144 人) 松前町内の小学生と保護者等(21 人) 広田保育園児と保護者等(18 人)	連携機関	伊予地区生活研究協議会	
普及指導内容	○当班は伊予地区生活研究協議会と連携し、園児と保護者を対象に、地域の伝統食や行事食を未来へ継承する食育活動を今年度から開始した。 ○これまでの子ども向け活動に加え、当班から保護者や学校へも広く参加を呼びかけ、松前町と砥部町の生活研究グループの協力により、各町２回ずつ食文化普及講座を開催し、世代を超えて地域の味を伝える貴重な機会が実現した。			
結果と今後	○参加者からは「身近な農産物の活用方法を知った」「来年もお願いしたい」と好評で、食文化の魅力に関心が寄せられた。 ○次年度も関係機関と連携し、幅広い年代層へのアプローチを通じて地域農業への理解促進と農産物の消費拡大を図っていく。			

左：松前町　郷土食で地域の農産物を学ぶ

右：砥部町　親子で地域農産物を味わう

標　題	ピーマン実績検討会で実証試験結果を報告		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和７年 12 月 16 日	場所	JA 松山市久万支所	
指導対象	JA 松山市ピーマン部会（11 人）	連携機関	JA 松山市、久万高原町　他	
普及指導内容	○JA 松山市ピーマン部会実績検討会において、当班実証ほ場で実施した試験結果及び関係機関と実施した病害虫一定点調査の結果概要を報告した。 ○日射制御型自動かん水装置による局所施肥が収量に及ぼす影響について試験を実施した結果、固形肥料や液肥かん注の施肥方法の違いで生育、収量に差異はなく、施肥時間の短縮が確認できたことを報告。			
結果と今後	○現行より安価な肥料設計における生育、収量の試験を行い、同等以上の品質、収量が確認できたため、次年度の栽培指針に採用することとなった。 ○病害対策として、９月中旬以降に炭疽病が多く発生したことから、次年度は土壌消毒や通路に防草シートを敷き土壌の跳ね上がり防止を徹底することとした。 ○全体的に生育は安定し出荷量は 488.2ｔ（昨年 402.6ｔ）、部会平均単収は 6.5ｔ/10a（昨年 5.4ｔ/10a）と増加した。出荷量が増加したことで販売額は 2.61 億円となり、１戸当たり平均販売額は 2,516 千円で、過去２番目に高い金額となった。			

左：局所施肥栽培試験実証ほの設置

右：実績検討会

標　題	トマトの高温対策実証試験結果を報告		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和７年 12 月 19 日	場所	JA 松山市久万支所	
指導対象	松山市農協久万高原トマト部会役員（10 人）	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	○久万高原トマト部会が今年度の総括を行う実績検討会において、指導班が遮光資材や細霧冷房を用いて実施した「夏秋トマトにおける高温・強光対策技術の比較試験」の結果報告を行った。 ○報告では、ハウス内部の最高気温が 1～４℃程度低下するが、生育に影響が無かったことと、高温を抑制することで品質がやや向上したことを説明した。			
結果と今後	○参加者から、細霧冷房等による気温低下の状況や果実の肥大状況についての質問があり、高温対策への関心の高さが伺えた。 ○今後も JA や部会と連携しながら実証試験を継続し、地域にあった高温対策に向けて指導を行っていく。			

左：実績検討会

右：質問をする参加者

標　題	シンテッポウユリの定植時期の検討について		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年 12 月 17 日	場所	JA 松山市川上支所	
指導対象	シンテッポウユリ生産者（５人）	連携機関	JA 松山市	
普及指導内容	○シンテッポウユリは９月彼岸前に需要が高まるが、昨今の夏季の高温の影響により抽台率の低下や高所ロゼットの発生による採花率の低下が問題となっていることから、採花率の向上に向けて、最適な定植時期を明らかにする実証を行っている。 ○今回、生産者向けの育苗講習会において、今年の実証結果を報告するとともに、次年度の対応方針等を検討した。			
結果と今後	○今年は、昨年多発した高所ロゼットの発生が少なく、品質も良好であったため、全期間を通じた採花率は、定植時期の違い（5/19、6/6）による差は見られなかった。 ○昨年のような高所ロゼット多発年では、定植時期が遅くなると採花率が低下する傾向にあることから、来年度も引き続き関係機関と連携して、定植時期の前倒しをはじめ、高温の影響を軽減する栽培技術等について検討を進める。			

【高所ロゼット】
茎が伸びず葉が密集して重なり、開花しなくなること

左：通常の蕾　右：高所ロゼットの発生

実証ほ調査

標　題	**小学生に温州みかんの収穫と試食を通して農業の魅力を発信**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月１日	場所	宇和島市立高光小学校	
指導対象	高光小学校３・４年生児童（９人）、教員（１人）	連携機関	みかん研究所	
普及指導内容	○同校は温州みかん「宮川早生」を栽培しており、校区内でかんきつを栽培している県農業職 OB と共に６月と９月に摘果作業を指導し、今回は収穫作業を実施した。 ○室内ではドローンで空撮した園地の映像紹介や、みかん研究所から提供のあった「紅まどんな」「太田ポンカン」「はれひめ」などの品種当てクイズを行うとともに、試食した。			
結果と今後	○約 60kg の果実が収穫でき、児童や教員からは「収穫作業が楽しかった」「前年度より美味しかった」「摘果や防除など年間を通じた管理の重要性を感じた」などの感想が聞かれた。 ○今後もかんきつへの理解や関心を深めてもらう活動を通して、農業の魅力を発信する。			

左：児童に収穫方法を指導
右：試食の様子

標　題	**「南柑 20 号」根域制限マルチ栽培に手応え**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月４日、19 日	場所	宇和島市吉田町玉津	
指導対象	玉津柑橘倶楽部（２人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○管内では、復興対策の一環で緩傾斜地でも高品質果実生産が可能な「根域制限高うねマルチ栽培」のモデル栽培に取り組んでいる（令和２年春に２年生苗を定植）。 ○これまで摘果、施肥・かん水量、枝の誘引などを関係機関と継続指導してきており、両日に収穫調査を行った。			
結果と今後	○収穫量は 6.7ｔ（5.1ｔ/10ａ）と裏年傾向の昨年を大きく上回り、良好な結果となった。 ○ほ場は平坦地かつ低樹高のため、収穫時間も予想より短く、生産者からは「毎年この程度の収量があれば、やりがいがある」との感想が聞かれた。			

左：収穫前のモデル園
右：収穫作業

標　題	「緑肥」で環境負荷と肥料コストを低減！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和７年９月 20 日～12 月５日	場所	鬼北町、松野町内各地	
指導対象	緑肥利用生産者（４人）	連携機関	鬼北町、松野町、JA えひめ南	
普及指導内容	○JA えひめ南鬼北早期米生産者部会は、近年の肥料価格高騰への対策と、持続可能な農業の実現に向け、緑肥の活用を推進している。 ○これまでの当班の調査により、マメ科の「ヘアリーベッチ」や「レンゲ」を田植え前にすき込むことで、化学肥料の削減はもとより、雑草の抑制や代かき時の濁水軽減など一定の効果を確認している。 ○今秋、新たに緑肥に取り組む生産者に対して、すき込み後の分解期間（約３週間）の確保や、草量過多による倒伏防止など、安定生産に向け技術指導を行った。			
結果と今後	○緑肥は順調に生育しており「肥料代を抑えられ、種代だけで済むのは非常に助かる」「春にどれだけ緑が広がるか楽しみだ」と期待の声が聞かれている。 ○今後は、収穫時期に向けて慣行栽培と同等の収量・品質が確保できるかを検証し、環境保全と経営の両立を目指す。			

左：ヘアリーベッチ区ほ場
右：無処理（慣行）区ほ場
（令和7年4月 21 日撮影）

左：ヘアリーベッチ区の田面水
右：無処理（慣行）区の田面水
（令和7年4月 21 日採水）

ヘアリーベッチほ場
（令和７年 12 月５日撮影）

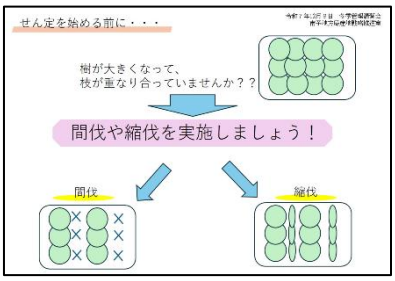
標　題	JA 伊勢におけるかんきつ輸出の取組みを学ぶ		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和７年 12 月 17 日	場所	三重南紀経済センター柑橘選果場	
指導対象	―	連携機関	JA えひめ南、愛南町	
普及指導内容	○当班は欧州向け「河内晩柑」輸出を支援しているが、腐敗果の発生や残留農薬基準超過などの課題があり、平成 20 年からかんきつを輸出している JA 伊勢の取組みを参考にするため、関係機関担当者と先進地視察研修を実施した。 ○同 JA より、輸出の概要や残留農薬への対応、対象園地の管理方法などについて説明を受けた後、意見交換会を実施し、両者が抱える課題やその対策等を共有した。			
結果と今後	○同 JA では、輸出園地用栽培指針の作成や次亜塩素酸ナトリウム処理後の機械による風乾を実施しており、課題解決への見識を深めることができた。 ○今後、視察研修で学んだ方策を参考にし、関係機関と連携しながら生産者へ指導、支援を実施していく。			

左：輸出に関する意見交換
右：選果場見学

標　題	**農業研修生の就農準備が進む**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和７年 12 月 25 日	場所	愛南町城辺	
指導対象	就農研修生(1 人)	連携機関	愛南町、愛南町農業委員会、JA えひめ南	
普及指導内容	○愛南町内では３人の就農研修生が来春の経営開始を目標に、JA えひめ南と県農業指導士の下で研修に取り組んでおり、関係機関と研修や就農準備を支援している。 ○そのうち１人の研修生と高齢により規模縮小を検討している農家、関係機関による面談を実施した。			
結果と今後	○貸し手農家の「やる気のある人に任せたい」という思いに対し、研修生のかんきつ栽培を志す強い意欲が伝わり、愛南町中心部の「河内晩柑」などの優良園地約 60a の貸借が固まり、就農に向け大きく前進した。 ○残り２人の研修生についても農地が確保できており、当班は今後も就農に向け倉庫の確保や青年等就農計画作成を支援し、愛南の農業を担う人材の確保・育成に取り組む。			

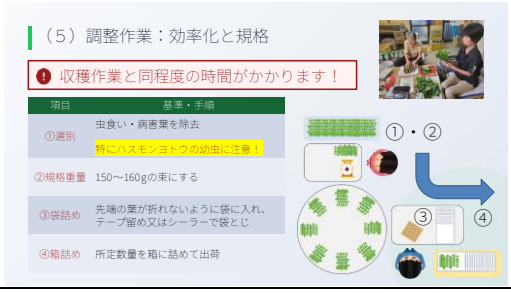
せん定作業中の研修生

標　題	**青梅収穫を見据えて意識統一！**		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年 12 月８日	場所	松野町延野々	
指導対象	梅生産者（６人）	連携機関	松野町梅振興会、松野町農林公社	
普及指導内容	○松野町の梅は、従来完熟梅を収穫しているものの、価格安定のため一部を青梅収穫にシフトしようとしているため、作業性向上を目的として樹高切り下げの実演を行った。 ○加えて、高樹齢の樹が多く、着果部分が樹の外周部に集中し、込み合っているため、縮間伐や側枝の更新方法についても指導した。			
結果と今後	○生産者からは、「縮間伐はどの樹種でも重要」「樹高切り下げと側枝更新で樹を若返らせよう」と納得と意欲の声が聞かれ、作業の重要性の再認識につながった。 ○今後は、せん定作業を受託する公社とも連携して、青梅収穫や防除効果向上を見据えた低樹高化を進めていくとともに、関係機関と連携して花芽や着果状況を確認し、令和８年産梅の収量予測と販売対策を協議する。			



左：昨年、樹高切り下げしたモデル樹を用いて、せん定指導
右：縮間伐の重要性について説明

標　題	つるむらさきの産地拡大に向け、愛南町で栽培講習会を開催		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年 12 月 15 日	場所	JA えひめ南 南宇和営農センター	
指導対象	ブロッコリー生産者（７人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○近年の気候変動の影響により、夏季定植のブロッコリー栽培が難しくなる中、新たな取組みとして、暑さに強く栽培が容易な「つるむらさき」を推進するため、同町で初めて栽培講習会を行った。 ○栽培管理のポイントに加え、最も時間を要し取組みの障壁となる、出荷調整作業について説明した。			
結果と今後	○参加者からは「どのような野菜か育てないと不安」との慎重な声もあったが、「暑さに強く栽培が容易なことは魅力的」「夏季の常時雇用に都合がよい」などの前向きな意見が多く、約 15a の栽培に取り組むことになった。 ○宇和島市を中心とする今年産は栽培面積・生産量ともに縮小傾向であったが、同町での実証や栽培指導等を積極的に行い、新たな産地拡大を図る。			



左：映像等で説明
右：出荷作業を図解

標　題	温州みかんの省力化に向け摘果シートの被覆効果を実証		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和７年５月～12 月	場所	八幡浜市真穴	
指導対象	真穴同志会青年部会員（10 人）	連携機関	－	
普及指導内容	○当室は、真穴同志会青年部の今年度のプロジェクトである「温州みかんの摘果シートの被覆効果」の実証について、年間を通じて支援を行った。 ○会員の園地２か所で実証ほを設置し、会員とともに摘果シート被覆による「作業時間」「生理落果率」「新梢発生状況」について調査した。			
結果と今後	○調査の結果、「作業時間」が慣行摘果に比べて大幅に短縮、「生理落果率」は 96％以上で補正摘果が不要な程度に生理落果を助長、「新梢発生状況」については来年の着果が十分に期待できる程度の新梢発生が確認できた。 ○会員からは摘果シートの確かな効果を確認し、「樹高の高い樹では、さらに作業時間を短縮できるのでは」との声が聞かれる等、今後の活用について期待を膨らませた。 ○本プロジェクトの成果は、令和８年３月に開催予定の「八西地区青年農業者プロジェクト活動発表会」で発表する予定。			

【摘果シート】
シートを樹冠上部に被覆し、適度な保温調整と上部遮光効果により生理落果を助長させ、摘果作業の省力化を図るもの。また、落果後に発生する新梢が翌年の結果母枝として成長することで、隔年結果の是正にもつながるとされているが、比較的新しい技術で普及には至っていない。

上：摘果シートの被覆
右：被覆部（樹冠上部）の果実が落果し新梢が発生

標　題	**アルバイター説明会で地域連携を推進**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和７年 12 月２日	場所	JA にしうわマンダリン、穴井公民館	
指導対象	アルバイター（八幡浜市内）（約 60 人）	連携機関	JA にしうわ、JA おきなわ、JA ふらの	
普及指導内容	○当室は、JA にしうわが開催するアルバイター向け雇用説明会を支援した。 ○産地間連携による労働力の確保が目的で、当日は、三崎共選、JA おきなわ、JA ふらのの担当者が、労務の内容や労働条件等を説明した。 ○アルバイター経験が就農のきっかけとなることも多いため、当室からは、管内における就農支援について説明した。			
結果と今後	○各 JA 等の個別説明の場では、具体的な労働条件について積極的な質疑応答がなされたほか、三崎地区での就労に興味を持つアルバイターもおり、雇用に向けて具体的な話をする事例もあった。 ○産地間及び地域間連携アルバイターは新規就農者確保につながる有効な手法であることから、当室は JA との連携を強化し、当管内での就農・就労を PR していく。			

左：全体説明会
右：個別説明会

標　題	**一次産業女子グループが農業用ビニールハウスでマルシェを開催**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和７年 12 月６日	場所	大洲市東大洲	
指導対象	ぷらいまりぃ会員（５人）	連携機関	―	
普及指導内容	○“とっておきの生産物で地域とつながる一次産業女子”を合言葉に活動に取り組んでいる「ぷらいまりぃ」が、地元農産物や加工品の PR、農業体験を目的に、会員のビニールハウスを利用してマルシェを開催し、当班は企画・運営を支援した。 ○当班が大洲喜多地区の後継者組織や生活研究会等にも連携を呼びかけ、地元の協力店舗も併せて 12 ブースが出店した。 ○今回初めてフードロス削減に繋げることを目的に、会員が栽培している野菜の規格外品を飲食物の出展者に利用してもらうことで、来場者への PR を図った。			
結果と今後	○「ぷらいまりぃ」のブースでは、ハウス内の暖かさを感じてもらいながら、農産物の販売や農作業体験を通じ交流を深めるなど、約 50 人が来場し、賑わいを見せた。 ○今後は、恒例活動につなげるため、事前告知や情報発信の強化を図るとともに、「ぷらいまりぃ」と管内の他農業者組織との連携を支援し、地域農業を盛り上げる一次産業女子のイベントとなるように企画等を指導していく。			

左：ハウスマルシェ外観
右：ぷらいまりぃのブースの様子

標　題	**起業を志す高校生を青年農業者が応援！**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和７年 12 月７日	場所	長浜ふれあいコミュニティセンター	
指導対象	長浜未来協議会員（19 人）	連携機関	大洲市	
普及指導内容	○長浜未来協議会(通称ミライズ)は、起業家の育成を目的とした「大洲市高校生チャレンジプログラム」の趣旨に賛同し、高校生が企画・運営する「長浜ふれあいマルシェ」に出店し、当班は同協議会が行う販売活動を支援した。 ○マルシェでは、会員らが生産したかんきつ類や野菜をはじめ、ドライフルーツ、ミライズ製品のミカンジュースを販売し、地元産品のプロモーションを行った。			
結果と今後	○会員は、来場者や高校生に対し、地域資源の魅力や生産過程等を伝えるなど積極的に交流。 ○高校生が掲げた「世代を超えた地域の繋がりをつくる」というマルシェの趣旨に貢献するとともに、販売活動を通じて高校生の起業意識を高めた。 ○当班では、今後もこのような教育活動や担い手育成活動に青年農業者が積極的に関わることで、個人や組織の資質向上と地域貢献につながるよう、活動を支援していく。			

【大洲市高校生チャレンジプログラム】大洲市内の地域資源を活用した新しい商品・サービスについて、自ら企画、実行まで手掛ける実践的な活動にチャレンジできるもの。大洲市内在住または通学している高校生が対象（大洲市主催）。

長浜産かんきつ類の販売

本イベントを企画した高校生たちと

標　題	**各落葉果樹生産部会がせん定方法を勉強**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和７年 12 月 10 日（ぶどう） 令和７年 12 月 12 日（キウイ）	場所	西予市宇和町田之筋、皆田現地（ぶどう）、西予市城川町魚成、宇和町皆田現地（キウイ）	
指導対象	東宇和ぶどう生産部会等(17 人) 東宇和キウイフルーツ生産部会(20 人)	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	○東宇和ぶどう、キウイフルーツ各生産部会は、高品質果実生産を目的に、せん定講習会を開催し、当班は各品目の生産指導の一環として知識・実技習得を支援した。 ○講習会では、各品目のせん定に対する考え方・重要性を説明するとともに、園地の樹姿に応じたせん定方法について指導した。			
結果と今後	○園地ごとに立地条件や樹勢・樹姿が異なることから、それぞれの園主とせん定方法を協議しながら実演したため、理解しやすかったと好評であった。 ○当班は、今後も管内のぶどう・キウイフルーツ高品質果実生産を支援する。			

左：ぶどうせん定講習

右：キウイせん定講習

標　題	首都圏における流通・販売動向等調査を実施		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和７年 12 月９日～11 日	場所	（株）ユナイテッドベジーズ店舗 東京都中央卸売市場 大田市場他	
対　象	若手普及指導員（６人）	連携機関	（株）ユナイテッドベジーズ 県東京事務所他	
内　容	○若手普及指導員が、首都圏の実需者消費動向や県産農産物の評価、流通上の問題点等を把握するための調査を実施。 ○（株）ユナイテッドベジーズの協力を得て、３店舗で各々、売り場や商品づくり、商品販売、接客対応を体験し、消費者ニーズを調査。 ○県東京事務所、せとうち旬彩館及び全農えひめ東京事業所で、県産農産物の流通・販売動向等を情報収集。 ○さらに、若手普及指導員自らが情報収集し、スーパー・量販店等の販売動向を調査。			
結果と今後	○若手普及指導員は、首都圏の本県農産物の消費動向や評価により、新たな気づきや学びを確認。 ○今後、その体験や人脈を活かし、普及活動に取り組むことを申し合わせた。			

左：（株）ユナイテッドベジーズ店舗調査
右：大田市場荷分場調査

標　題	愛媛県スマート農業シンポジウムを開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和７年 12 月 12 日	場所	農林水産研究所	
指導対象	県内生産者及び関係団体職員、行政関係者等（89 人）	連携機関	（株）青井農園、広島県技術普及課	
普及指導内容	○県内外の普及事例や実証結果、先進技術を導入している農家のスマート農機導入実態を共有し、スマート農業技術の普及促進と持続可能な農業経営の実現を目指すため、愛媛県スマート農業シンポジウムを開催した。 ○シンポジウムでは「スマート技術を活用した普及指導事例」や「スマート農機導入による経営改善効果」などをテーマに、生産者や普及指導員をはじめ、参加者全員が自らの業務や経営に活かせる幅広い内容とした。			
結果と今後	○各講演に対し、参加者からは活発な質問が寄せられ、スマート農業に対する関心の高まりが伺えた。 ○今後も、県内におけるスマート農業のさらなる普及と発展を目指し、関係機関と連携しながら推進に取り組む。			

（株）青井農園 青井 秀典 氏による講演

<table>
<tr><td>標　題</td><td colspan="2">若手職員が地域課題を解決するプロジェクト型調査研究の中間報告会を開催</td><td>機関名</td><td>農産園芸課
高度普及推進グループ</td></tr>
<tr><td>年月日</td><td>令和７年 12 月 18 日</td><td>場所</td><td colspan="2">農業共済組合ビル</td></tr>
<tr><td>指導対象</td><td>採用２年目普及職員（12 人）</td><td>連携
機関</td><td colspan="2">―</td></tr>
<tr><td>普及指導
内容</td><td colspan="4">○若手職員が担当地域の課題解決に向け、それぞれの技術実証を行うプロジェクト型調査研究の中間報告会を開催した。
○同プロジェクトは若手職員の現場での指導力の向上を目的とし、発表では自らが抽出した課題に対する普及活動や調査の結果が報告され、会場からは生産者の反応や地域の実情等に関する質疑応答が行われた。</td></tr>
<tr><td>結果と今後</td><td colspan="4">○若手職員は活動を通じて、普及活動や栽培に関する技術の向上が伺えた。
○今後、今回の質疑やアドバイスを参考にして、一年間の活動結果をとりまとめることとしている。
○当グループでは、今後も若手職員への指導を継続的に行い、同プロジェクトを通じた技術継承やスキルアップを図る。</td></tr>
<tr><td colspan="5">
活動内容を報告する普及職員</td></tr>
</table>

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543